

「本部」反動分子による 「関東地評支部間交流」を粉碎せよ

(3/23-24 於銚子)

日刊 動労千葉

82,3,21

No. 998

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)四三三二・七

「復帰オルグ」と連動した「動労関東地評支部間交流」は 明らかな動労千葉破壊攻撃！

動労「本部」革マル反動分子は、三月二三・二四日、銚子運転区において、「関東地評支部間交流」なるものを策動している。

これは動労「本部」革マルによる、「復帰オルグ」と称する「組合員に訴えます」なる卑劣文書の郵送と連動した動労千葉破壊攻撃であり、断じて許すわけにはいかなない。

動労千葉は、こうした組織破壊攻撃を断固粉碎すると同時に、動労「本部」革マルに利用され、手先となっている「本部」派の糾弾、解体を宣言するものである。

職場慣行・既得権の一切を売り渡す 動労「本部」革マル

動労「本部」は、第一一五回定中委において「働こう運動」なる合理化積極協力方針を決定した。

そして東京三局長名による、三月四日付「職場規律の確立について」(日刊動労千葉第九九五号参照)なる、職場慣行、職場既得権剥奪攻撃の申し入れを動労の各支部長、国労の各分会長に直接通達することを了承し、この重大な攻撃を容認したのである。

さらに、三月十七日の「東京地本定期委員会」は、「電車の好きな子供達に夢を与えるために、運転席のカーテンをはずすこと」と、「国鉄の服務規程に従い、ネクタイをきちんとしめ、帽子をかぶり、丸首セーターを禁止する」なる「方針」を「満場一致」で決定した。

今や、われわれの先輩達が血と汗でかちとってきた職場慣行・既得権の一切を、動労「本部」革マル反動分子らが、労働組合の名をもって当局に売り渡しているのだ。

これを生産性向上運動・愛国主義運動の尖兵、

「産業報国会」運動にひきずりこむ反動路線といわずして何といおうか。

この歴史的裏切り路線に対し、動労各支部・現場の組合員は大混乱し、批判と不満が沸とうしている。

動労「本部」革マルは、この組織的危機を乗り切るために、「動労千葉つぶし」に組合員の目をそらし、批判・不信をかわそうとしているのだ。第一一五回定中委における土屋幹の「オルグ要請」を受けて、「三月三十一日までに復帰せよ」なる組織破壊ピラを、動労千葉組合員の自宅に郵送し、今また「関東支部間交流」なる動労千葉破壊策動に出てきているのである。

「関東支部間交流」は動労千葉破壊攻撃だ

動労「本部」革マル反動分子は「交流の目標」について、「役員、活動家相互の連帯強化を

「こちら動労」密室「返上

運転席のカーテンをはずし、密なもの。

密運転はめまじり、前部座席を走る国鉄や中距離電車、運転席と座席の間においていたカーテンが、きょう十八日からきょう集したいなどの理由で、運転者は運転席の進行方向を向くことが出来るようになった。これは左右と中央の三枚。さる四十四歳の行政改革の危機感から、運転者、当座席側が運転者の諸動作(松崎委員長、四千六百八人)が、十七日開いた第七十八回定期委員会、乗務員懇談会に出席し、客席に第一、第二として打ち出し、右のカーテンもあけて全部仕

カーテンはずし 制服で明朗運転

切ってしまった。このため、乗客は電車の進行方向を見ることができなくなったばかりか、密運転、内での運転者の服装の乱れに拍車がかかった。当座席はこれまで再三、カーテンの引き上げを要請してきたが、この十七日間拒否されてきた。松崎委員長は十七日の委員会、「国鉄に対する批判のうしろ、事実については真摯に受けとめ、正すべきはすぐにも具体化するべきだ」として、①電車の好きな子供達に夢を与えるために、(中山委員長と語っている。

反合運転保安闘争と反マル生闘争の成果を「自ら放棄せよ」と叫ぶ松崎。(読売新聞3月18日)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！